



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



【地球環境基金助成事業】

シリアスボードゲームを開発、有機稲作学習や有害鳥獣対策に活用しました。

◆ コメ作りボードゲーム

土地条件 1)平地 2)谷津
営農の方向 1)慣行農法 2)有機農法
イベントカード 1)自然災害 2)米価

START サイコロ
家選択
1ターン目 土地購入
道具/栽培管理
自然災害対応
収穫米価
環境フェイク/精算
次ターン話し合い
2ターン目 土地購入
道具/栽培管理
自然災害対応
収穫米価
環境フェイク/精算
次ターン話し合い
3ターン目 土地購入
道具/栽培管理
自然災害対応
収穫米価
環境フェイク/精算
次ターン話し合い

グループ全体計算
環境フェイク/精算
収穫米価
自然災害対応
道具/栽培管理
4ターン目 土地購入
次ターン話し合い
環境フェイク/精算
収穫米価



有限会社ジー・リサーチ代表・東京大学空間情報科学研究センター客員研究員の今井修さんと房総野生生物研究所代表の手塚幸夫さんの協力を得て、「コメ作りボードゲーム」は完成しました。

いすみの田んぼと里山と生物多様性

2. 里山ってどんなところ？

「いすみの田んぼと里山と生物多様性」で里山の説明に使った図を活用して、ゲームの台紙（ボード）を作りました。

ここで紹介するボードゲームは、単に面白いだけのゲームではなく、社会の仕組みをゲーム上に再現させ、その上で参加者が色々な行動をとりながら、社会の課題を解決するというシリアスボードゲームと言えます。教育効果も高く、教育の現場での取り入れが始まっています。

今回は、この事業で制作したテキスト、「いすみの田んぼと里山と生物多様性」の世界観を取り入れ、慣行農法の特徴と有機農法の特徴を比較し、それぞれの特色をゲームを行うことで理解することを目的としています。

このボードゲームは2人から5人程度までで行い、それぞれ獲得するコインで競争しますが、参加人数が多い場合は、グループで行います。獲得したコインの違いで、それぞれのグループの戦略の違いを学ぶことができます。

このようなシリアスボードゲームでは、ゲーム後の振り返りが重要です。なぜこのような結果になったか、参加者同士でその理由を考えることで学びが深くなります。

◆ イノシシ対策ボードゲーム

住民は、餌場にある餌を無くしイノシシが近づかないようにし、対策コマを置いてイノシシが通れないようにします。ハンターは、イノシシの捕獲しかできません。住民の対策を見ながらイノシシが追い込まれる状況を想像し、イノシシの場所を推定し、その場所に移動し捕獲します。8ターンの間にイノシシを捕獲できれば、住民とハンター側の勝利、イノシシが逃げ切れば、イノシシの勝利となります。参加者の土地勘が働き、より現実の問題として捉えることができるように、実際の地図をボードゲームの台紙として利用しています。いすみ市役所や南房総地域のハンター対象に御宿町でワークショップを行い、夷隅小学校（写真右上）君津高校（写真右下）では授業も行いました。

いすみ市鳥獣対策ボードゲーム

被害や目撃情報
寄せない
入れない
餌を求めて行動する
捕まえる

◆ カラス対策ボードゲーム

カラス対策を理解するには四季の変化を知ることが重要で、かつ何年も続けることが大切だというメッセージのゲームが作られました。プレイヤーは住民とカラスと行政とし、餌が残っているとカラスが集まり倍増するというモデルです。住民が急いで餌を除き、行政が餌の網掛け作業を行うことで、カラスが食べられる餌がなくなり、地域からカラスが居なくなります。

カラスは移動範囲が広いことから、いすみ市、大多喜町、御宿町を含む広範囲の地図をベースに、(株)CrowLabと今井さんが作成。御宿町でワークショップを行いました。

いすみ市カラス対策研修ボードゲーム

カラス
頭が良い餌に執着
ゴミ置き場
網などの提供
行政

住民
餌を捨てる
餌を回収する

NPO 法人いすみライフスタイル研究所

〒299-4616 千葉県いすみ市御宿町長者 475
Tel: 0470-62-6730 Fax: 0470-62-6731
E-mail: isumi-style@bz03.plala.or.jp
発行人: 高原和江 執筆・編集・DTP: 江崎 亮

※このポスターは 2020 年度地球環境基金助成金の助成を受けて作成しました。
※私たち NPO 法人いすみライフスタイル研究所は、環境保全活動をはじめ、国連で採択された「SDGs (Sustainable Development Goals- 持続可能な開発目標-)」を視野に入れたまちづくりに取り組んでいます。



isumi-style.com